

平成4年度魚病診断結果

沢田健蔵・池脇義弘

平成4年4月～平成5年3月までに養殖魚および種苗生産や中間育成時に発生する病害について、試験場への持ち込みと養殖場を巡回調査時の検体について診断した結果を表1,2にまとめた。

表1 平成4年度診断結果(淡水魚)

魚種	病名	年 月	1992									1993			計		
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
	カラムナリス病						1										1
	せつそう病		1				2	4		1		1					9
	ミズカビ病			1													1
	過食				1												1
	細菌性鰓病			2			4	2	1								9
	白点病										3	1					4
	尾ぐされ病			1													1
	連鎖球菌症									1							1
	不明			2			1					1					4
	カラムナリス病								2	1							3
	ギロダクチルス症									1							1
	ビブリオ病			1				2	4	2	5	12	1	1			28
	ミズカビ病					1	1	1	1	1							5
	細菌性疾病					1	3	6	3	1		2					16
	冷水病		8	8	3	7	1	5	1	1	1		1	4			40
	連鎖球菌症							3		2	2	4					11
	不明				2	1	2	1	3	6	2	2		2			21
	エドワジェラ症					2			1								3
	シュードダクチルギルス症									2							2
	パラコロ病			1											1		2
	餌喰い悪化				2												2
	鰓ぐされ病					1	1	1	1								4
	不明											2					2

表2 平成4年度診断結果(海産魚)

魚種	病名	年 月	1992												1993			計
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
ブリ	類結節症				3	1										4		
	連鎖球菌症						1	1	3	1	1	1	1	1	4		13	
	べこ病						1										1	
ヒラメ	ビブリオ病			1													1	
	エドワジェラ症		1	2	1			1	1				1				7	
	連鎖球菌症							1									1	
	不明細菌性疾病		1														1	
	ウーディニウム症								1						1	1	3	
	スクーティカ症					2											2	
	不明病						1		1						1	2	5	
	ガス病					1										1	2	
トラフグ	不明細菌性疾病						1										1	
	トリコディナ症															1	1	
	白点病									2							2	
	繊毛虫症(種類不明)								1								1	
	口白症								1	1							2	
	餌料性疾患												2				2	
	不明病						1					2					3	
マダイ	類結節症						1										1	
	滑走細菌症											1					1	
	餌料性疾患											1					1	
	体表白濁症								1								1	
*1	連鎖球菌症											1				1		
*2	エラムシ症													1		1		
*3	不明病										1					1		

*1 シマアジ
*2 クロダイ
*3 イサキ

診断結果

内水面における診断件数はアユ 125 件, ウナギ 15 件およびアマゴ 31 件となり, 総件数は 171 件であった。海面における診断件数はブリ 18 件, ヒラメ 22 件, トラフグ 12 件およびその他の魚類 7 件となり総件数は 59 件であった。

アマゴではせっそう病および細菌性鰓病の診断数が多く, アユでは冷水病の診断件数が急増した。その他, 細菌性疾病の項に含めたシュウドモナス感染症の件数が多くなった。海産魚では, ブリの類結節症の件数は減少したが, これに代わり連鎖球菌症の件数が増加した。ヒラメでは, エドワジェラ症の件数が多くなっている。

薬剤感受性試験結果

養殖アユから分離された *V. anguillarum* A Type の薬剤感受性試験結果を表 3 に示した。一部にはスルファモノメトシンに対して高感受性を示す菌株もみられたが、大部分は低感受性であり、また、オキシリン酸にたいしてはすべての株が低感受性であった。

表 3 養殖アユから分離された *V. anguillarum* の薬剤感受性試験結果

薬 剤 名	感 受 性 の 程 度			
	—	+	++	+++
スルファモノメトキシ	10件		1	5
オキシリン酸		17		